



料亭  
濱長  
土佐お座敷奥



## 濱口実佐子 はまぐち・みさこ

1964年（昭和39年）1月8日 高知市生まれ。  
やぎ座・B型。

幼少時、実の母親と離れての生活を経験した後、  
10歳の頃、再び母親のもとで暮らすこととなる。

母から注がれる愛情を受けながら、  
祖父母が営む老舗料亭「濱長」の

「和の心」を重んじるという環境にはまったく触れずに成長。  
高校卒業後、美容室に勤務。

最年少で店販（商品販売）売上げトップの成績を上げる。

その後、濱長を母と共に手伝う中で、サービス業の楽しみを覚え  
人を喜ばせることが自身の使命ではないかを感じる。

自らの力を試すため、20代前半にてラウンジ・クラブの経営を始める。  
持ち前の発想力を武器に店舗拡大を繰り返し、

2002年（平成14年）10月15日、

高知城を望む通り・追手筋にあるホテルの2Fにラウンジ「桜塾」をオープン。  
高知のナイトスポットでの有名店の1つとして実りを得ることとなる。

その一方、（平成13年）時代のあおりを受け暖簾を下ろしていた濱長の  
土地売却の話が（平成18年）冬に持ち上がる。

2007年（平成19年）11月、奔走の末、

祖母・千代子を大女将、母・賀世を女将、自らが若女将となり、  
土佐のお座敷遊び・芸妓がもてなす「料亭濱長」として営業再開を果たす。

2009年（平成21年）、祖父・八郎が立ち上げに情熱をかけた

高知最大の夏祭り「よさこい祭り」に「濱長・花神楽」としてチーム出場し、  
翌年全国大会にて武政英策賞を受賞。

2012年（平成24年）に高知県からの依頼により、  
台湾ランタンフェスティバルにて初の海外演舞。

同年3月、女将襲名。

同年10月、「木甫の母」と言われる高知出身の

第二次世界大戦後、韓国木甫市で孤児院を設立した田内千鶴子さんの  
生誕100年記念式典へ、高知県の依頼により花神楽よさこい踊りを演舞。

2013年（平成25年）9月3日、高知県観光特使として認証を受ける。

同年、「桜塾」をリニューアル。ジャズの生演奏を楽しめるフロアを「桜塾」、  
芸妓や和服女性が土佐風にもてなすフロアを「土佐見番」とする。

現在、料亭濱長を起点に、高知をもっと元気にしよう！と目下画策中。

PROFITABLE